

## 2002年度 法政大学公開講座実施報告書

雑誌名	法政大学体育・スポーツ研究センター紀要
巻	21
ページ	59-60
発行年	2003-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00015474">http://hdl.handle.net/10114/00015474</a>

## 2002年度 法政大学公開講座実施報告書

今年度、次の公開講座を実施しました。

## ●第1回公開講座 「テニス」

- ・開催日時：2002年7月7日(日) 10:00~12:00  
13:00~16:00
- ・場 所：法政大学多摩総合グラウンド テニスコート・ソフトテニスコート
- ・参加者：法政大学多摩キャンパス近隣市町住民 50名
- ・主催：法政大学体育・スポーツ研究センター
- ・後援：町田市・相模原市・八王子市・城山町各教育委員会
- ・講師：神和住 純(本学教授 現デビスカップ日本代表監督)  
田村 義男(本学教授 日本テニス協会公認指導員)  
加藤 幸夫(本学講師 元デビスカップ代表選手)
- ・補助員：本学体育会庭球部員
- ・実績・効果：午前中は基本技術の大切さ、必要性を主眼として、風船割等ゲーム性のレッスンを取り入れて行い、午後試合形式を取り入れ、試合における楽しさ、厳しさ、メンタル面の重要性も理解してもらうように行った。
- ・内容：基本ストローク・サーブ・ボレーのレッスン。サービス&レシーブのレッスン。ストローク風船割ゲーム。

## ●第2回公開講座 「陸上競技教室」

- ・開催日時：2002年7月13日(土) 13:00~17:00
- ・場 所：法政大学多摩総合グラウンド 陸上競技場
- ・参加者：法政大学多摩キャンパス近隣市町住民 中・高校生 59人
- ・主催：法政大学体育・スポーツ研究センター
- ・後援：町田市・相模原市・八王子市・城山町各教育委員会
- ・講師：苅谷 春郎(本学教授・法政大学体育会陸上競技部部長)  
苅部 俊二(本学専任講師)  
成田 道彦(本学講師・法政大学体育会陸上競技部監督)  
川畑 伸吾(本学OB、シドニーオリンピック日本代表)  
邑木 隆二(本学OB、エドモントン世界陸

上日本代表)

内藤 真人(本学学生、110mH日本記録保持者)

- ・補助員：法政大学体育会陸上競技部部員
- ・実績・効果：トップアスリートによるドリルをみて吸収してくれたものと思う。  
記録会では公認ではないものの自己ベスト記録を上回る受講者もあった。
- ・内容：トラックにてアップの為にジョギングを行い、降雨の為、体育館アリーナにて体操・ストレッチングを行い、陸上競技に必要な動作につながるドリルを行った。雨が上がった後、短距離はスタート練習、長距離はクロスカントリーコースでトレーニングを行い、その後100m、1500mの記録会を行った。

## ●第3回 公開講座 (バドミントン教室)

- ・開催日時：2002年10月5日(土) 13:00~16:00
- ・場 所：法政大学多摩総合体育館2階 アリーナ
- ・参加者：法政大学多摩キャンパス近隣市町住民 53名
- ・主催者：法政大学体育・スポーツ研究センター
- ・後援：町田市・相模原市・八王子市・城山町各教育委員会
- ・講師：兒嶋 昇(本学講師)  
町田 文彦(本学体育会バドミントン部コーチ)
- ・補助員：本学体育会バドミントン部 部員
- ・実績・効果：『身体で打つバドミントン』を今回テーマとし、基本ストロークの見直し、正しいグリップの握り方から始まり基本ストローク6つの型のデモストレーションを見た後、6面コートに分かれ打ち合いを行った。  
年齢の幅が多く技能者別のクラス分けが難しかったが、各コート2名づつ補助員を配置し、打ち合った為、参加者の方々はいくらか打っても正確なショットが必ず返球されるので、継続的にシャトルを追わなければならない、必然的に身体でバドミントンを覚える事となった。
- ・内容：基本ストローク・グリップの握り方。また応用技術練習として、オールショートやオールロングで足を使ったバドミントンを会得してもらった。

**●第4回 公開講座（少年サッカー教室）**

- ・開催日時：2002年12月7日（土）
- ・場 所：法政大学多摩総合グラウンド 陸上競技場
- ・参加者：法政大学多摩キャンパス近隣市町住民 小学校4年～6年生 201名
- ・主 催：法政大学体育・スポーツ研究センター
- ・後 援：町田市・相模原市・八王子市・城山町各教育委員会
- ・講 師：前田 秀樹（本学講師・日本サッカー協会公認指導者S級・日本リーグ通算209試合出

場)

- ・補助員：法政大学体育会サッカー一部部員
- ・実績・効果：雨が降っていたが、陸上競技場のフィールド内芝生の中で、基本的動作の習得から、フェイントのドリルを行い、その後5対5のミニゲームで終了した。身体を常に動かすメニューと、楽しくプレーするプレーする事を心掛けて行った。子供達の技術も高く特に、女の子の技術が高いのにびっくりした。